

学習会 (子ども会) だより 11月号 合併編
MY SKY 第13号
 マイ スカイ
 1995年11月28日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者
 板野中学校
 学習会
 編集・文責:吉成士

さむ 寒くなりましたね。風邪^{かぜ}なんかひいていませんか？

ところで、今月の「MY SKY」は前編^{ぜんぺん}が出されていなかったって知ってましたか？
 私^{わたくしごと}事^{いそが}で忙しくって発行^{はっこう}できませんでした。それで、合併編^{がっぺいへん}にさせてもらったというわけ
 です。ごめんなさい。記事^{きじ}にしたいことはたくさんたまってるのですが、まずは一つずつ、
 一つずつ……。



①よく出^{しゅつちよう}張^なしてるけど、何^{いたの}してるの？ (板野町解放教育推進委員会から)

みなさん！みなさんは、中学校の先生をどのくらい知っているのでしょうか？どのくらい
 というのは、「その人のこと」というのではなく、「何人くらい名前と顔^{いっち}が一致しますか？」
 ということです。ちなみに、吉成という名前と顔は一致するでしょうか？阿部という名前
 と顔は一致するでしょうか？久米川は？佐藤は？岩谷は？山下は？乾は？これが結構^{けっこう}わか
 らないんですね。できれば学年の先生方と、今あげた先生の顔と名前くらいは、はっきり
 させておきましょうね。

ところで、私や阿部先生はすごくよく出張する機会が多いのですが、それだけ学校を出
 ていって何をしてるのかということについて、少しだけ触れておきたいと思います。

数^{かずおほ}多くある出張のうちでも一番回数の多いものが、「板野町解放教育推進委員会 (次^{いたの}か
 らは解推委と省^{しょうりやく}略します)」です。解推委は、他の市町村に先駆けて組織された、「板野
 町学校同和教育研究会 (次^{がくどうけん}からは学同研と省略します)」の中にある会の一つです。

そもそも学同研は、板野町内にある全ての学校(2保育園・3幼稚園・3小学校・板野中学校・
 板野高校・板野養護学校)の全ての先生で組織されているのですが、解推委は其中でさら
 に、各校の同和教育を担当している先生方で組織しています。ですから、解推委がある
 ときは、阿部先生と私は学校にいないのです。

それでは、その解推委とは「実際にどんなことをしているのか？」というと、就学前(2
 保育園・3幼稚園)・小(3小学校)・中(板野中学校)・高(板野高校)・養(板野養護学校)の間で、
 同和(解放)教育がスムーズに、しかも取りこぼしなく進めていけるように考えているのが、

今していることです。それ以前の、3年前に会ができたときには、今していることの下準備として、生徒のみなさんの実態を知るためのアンケート調査や、先生方の実態を知るためのアンケート調査を実施し、分析してきました。それをもとにして、いよいよ本題の仕事をしようとしているわけです。

こーれでも「よくわからない」というみなさんのために、さらにわかりやすく伝えたいと思います。

例えば、「同和(解放)教育なんて、おもしろくないな」と感じたことがある人もいるかもしれませんが、その「おもしろくない」という理由にはどんなものがあげられるでしょうか。

- ・暗いから
- ・自分のこととして感じられないから
- ・同じことを繰り返しているから
- ・カッコ良くないから

他にもいろいろあると思いますね。

では、これら理由の原因はどこから来るのでしょうか……。

原因はいろいろ考えられますが、その中の一つとして「授業をしている先生自身が持っている差別意識(暗さ)」と「何年も続けて行われる授業の計画性のなさ」があげられると思います。

初めの「授業をしている先生自身が持っている差別意識(暗さ)」については、様々な研修会などを通じて、少しずつ洗いつつあるように思います。意識なんて、すぐにコロッと変わるようなものではありませんからね。

問題はその後で、「何年も続けて行われる授業の計画性のなさ」を、「算数・数学のように、年齢に応じて計画的に積み上げていくようにしよう」というのが解推委の目的なのです。例えば、足し算引き算を勉強していないのに、方程式は難しいでしょ？

それと、今までに同じような資料で学習したという記憶はありませんか？

それらをなくしていこうとしているわけです。それに、逆にまだ学習できていないこともあるんですよ。困ったことでしょ？例えば、他の差別についての真実の学習なんてやった？やらなきゃいけないのに、できてないことってあるでしょ？このまま卒業しちゃったら、部落差別はしなくても、いつの間にか他の差別はしてた……なんてことにもなりかねないよ。そういうことをなくしていくためには、やはり計画的にわかりやすく学習すべき

だと思うんです。それも就学^{しゅうがくぜん}前からね。

今は特に、部落^し史について話し合っています。時代^{じゆん}順にいくと……江戸時代の前のことを、どのように、どの学年で教えるのか。江戸時代のことは、どのように、どの学年で教えるのか。明治時代の解放^{かいほうれい}令から水平社創立^{すいへいしゃそうりつ}についてはどうか。水平社運動から第二次世界大戦まではどうか。戦後からオールロマンズ事件まではどうか。それから教科書無償^{むしょうとう}闘争^{そう}や同和対策基本^{たいさく きほんぽう}法^{ほう}についてはどうか。とね……。

具体的にできるところまでやって、来年の4月からはこの計画^{けい画}に沿^そって、町内の全ての学校が取り組むことになると思います。



もう少し!!

もう少し続^つけます。実は10月26日に大阪の松原第三中学校^{まつばら}というところへ、私と阿部先生と三木先生と乾先生の4人で出張^{しゅつちやう}していました。同和教育の先進^{せんしんこう}校^{こう}ということで、勉強^{べんきやう}に行ってきたのです。

そこで、「これは板中に帰^{かえ}ってみんなに伝えておかねば!」と思ったことがありました。みんながわかっていればいいのですが、もしわかっていなければ……。誤解^{ごかい}しているのであれば、その誤解^{ごかい}を解^といておかねばなりませんので、思いついたときに伝えておきます。

「数学の授業に同和教育が入っているか？」

この文^{ぶん}章^{しょう}、理解^{りかい}できます?みなさんの頭の中で、「部落問題学習をはじめとする、特別な授業=同和教育」になっていませんか?もしそうなっているのであれば、考え^なおしてください。お家^{うち}の方々の中にも、「同和教育=部落問題学習」と思っている人が多くいるようです。確かに部落問題学習は同和教育の中の一つの大きな柱ですが、同和教育はそれだけにとどまるものではありません。数学でもそうですし、英語や音楽でも同和教育という視点^{してん}で授業が行われなければなりません。それは、「生徒のみなさん一人ひとりに目を向ける」ということなのです。同和教育の中では、人間^{にんげん}が放^{はな}つたらかしになるということはないということなのです。

どうですか?今日の授業で、放^{はな}つたらかしになっている子はいませんか?放^{はな}つたらかしにしている子はいませんか?

頭で考えるんじゃない。心で感じるんです。考えることも必要ですが、とにかく動くことですよ。感じたままに動くことですよ。それで失敗^{しつぱい}すれば、「ごめんなさい」と反省^{はんせい}し、改^{あらた}めましょう。完全な人間なんていないんですから!

とまあいうことで、全ての授業に同和教育を生かしてくださいね。

PS ところで、松原三中和この話がどうして結びついたのかというと、松原三中は、同和教育の研究授業で、教科学習をしていたから、この話を思いついたのです。おわり。

★ ★ ★ ★ ★

学習会についても！！

ところで、解推委では学習会についても改める話が出ています。何をどういうふうにか
というところ……。

「学習会では何をしているの？」と尋ねられると、「部落問題学習と教科学習をしている」と答えるのが、どうも正解のようですね。しかし、どうでしょう？そう答える以上は、部落問題学習と教科学習が半分半分に行われているのでしょうか？そうなのはいいですね。部落問題学習は月に1日か2日。残りの7日か8日が教科学習となっていますよね。これでは、「部落問題学習と教科学習をしている」と言うのが、すこし後ろめたい気さえしてきます。そう言うのなら、いっそのこと少なくとも半分半分にしてみてもはどうでしょうか？そこで、下のような日課表を考えてみました。

吉成案

月曜日の学習日課

5：30～5：40 準備・食事（10分）

5：40～6：30 教科学習（50分）

6：30～6：40 休憩・食事（10分）

6：40～7：30 部落問題学習（50分）

（今日の反省・清掃も含む）

月曜日以外の学習日課

6：00～6：10 準備・食事（10分）

6：10～7：00 教科又は部落問題学習（50分）

7：00～7：30 今日の反省・清掃（30分）

これはあくまでも私個人の案です。

そもそもこの学習会というものは、県外の活発なところへ行くと「解放子ども会」と呼ばれています。つまり、地域の子ども会活動なのです。その中で学力もつけようということで、教科学習もしています。しかし、ほとんどが部落問題学習であつたり、自分たちの住んでいる地域学習に時間を費やしています。

「学習会」。その言葉のもつイメージは、「学習（勉強）をする会＝塾のようなもの」となってしまうのではないのでしょうか。だから、「ええなあ」というねたみ差別を生んでしまったようにも思えるのです。

しかし、「子ども会」。この言葉のもつイメージは、「地域の仲間作りを進める子ども

たちの会」に変わってしまうのではないのでしょうか。

呼び方については置いておくにしても、今、板野町内や徳島県内の学習会が、内容を改めなければならない時期にきているのかもしれませんが。そうしていくためには、やはり、今までの学習会というものに対する、先生方や生徒のみなさん自身の意識を大きく変える必要があるように思うんです。「子ども会活動なんだ！」というように。

また、この意識は生徒のみなさんのお父さんやお母さんをはじめとする保護者の方々に、もってもらふ必要があるように思います。

そして、常にみなさんが自主的に、創造性を持って行動でき、先生と保護者はそれを全面的にバックアップしていけるような状況ができれば、最高だと思うんです。

ここでもう一つ私の案を。

吉 成 案

会 長（1名）……3年生 副会長（2名）……2年生と1年生

書 記（3名）……各学年から1名ずつ

上の係りを、各学習会場ごとに選びます。そして、「今日の反省」や「部落問題学習」のときは、常に会長さんか副会長さんに司会をしてもらいます。そうやって、自分たちで学習したり、話し合ったり、その中で決まり事を作ったり、活動をやってみたりするのです。当然先生も入るわけですが、先生はアドバイスをしたり、話し合いの中に入るといっただけのことです。主役は、生徒のみなさんなのですから！

実際に今年の板野町解放文化展の学習会作品は3年生が中心となり、自分たちで会を開きながら、自分たちで考え、決め、自分たちで制作し完成させました。自分たちだけで話し合い、知恵を出し合いながら物事を解決していく力というのは、部落解放のためにはなくてはならない力です。人に頼ってはいは「自らを解放せんとす」ることにはなりえせん。そんな学習も、少しずつ勉強していく必要があると思うんです。

解放文化展の作品制作だけではありません。今年から始まった交流学習会の運営を考えるのも、5会場の会長や副会長です。一泊研修やクリスマス会、お別れ会もそうです。これだけのことがいっぺんにはできなくても、少しずつできていけば、今以上のつながりができるように思えます。そうなれば、本当に力強い何かを、それぞれの胸の内に持つことができるように思うんです。そうしていきながら、学習会（解放子ども会）が本来の意味を失うことなく、かつ魅力があり、来たくなるようなものへと実現化していきたいのです。

ところで、ここでテストです。次にあげる事柄は、中学校時代に学習会（解放子ども会）

また、1年A組は全体学習を控^{ひか}えています。頑張^{ひか}って話し合いを積み重ねておきましょ
う！1年生の他のクラスもしっかりやりこんでおきましょうね！

南の「早つき」部^ぶ隊^{たい}も、本番当日、しっかりとしたものをを見せてください！

★ ★ ★ ★ ★

☆12月1日(金)～4日(月) 2学期末テスト

★12月1日(金)～7日(木) 板野町解放文化展(板野町民センター他)

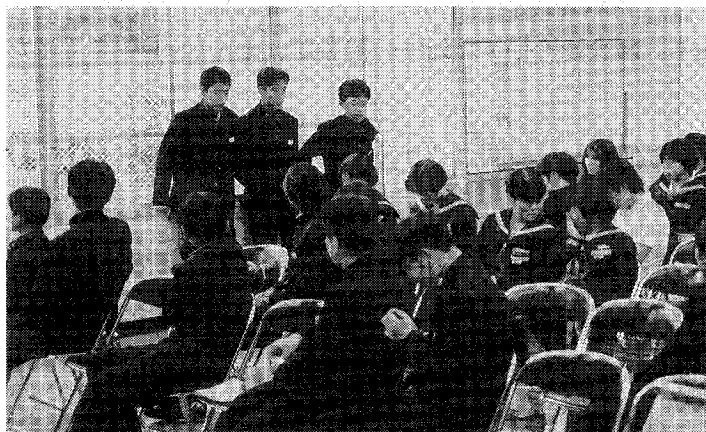
★12月7日(木) 1年A組1年全体学習

★12月8日(金) 江嶋修作先生来町

★12月10日(日) 南公会堂祭り(南公会堂にて)

★12月16日(土) 学習会(解放子ども会)クリスマス会

☆12月22日(金) 終業式



第1回部落解放中学生交流学習会(10月14日：総合センター)